

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲口 乙口 第380号 口修	氏名	天知 良太
審査委員	主査 河野 文昭 副査 岩本 勉 副査 田中 栄二		

題目

三次元デジタルモデルを用いた片側性口唇裂口蓋裂患者の咬合評価に関する検討

要旨

口唇裂口蓋裂患者は生後間もない時期から成人に至るまで非常に長期に亘る集学的な治療が必要であり、とりわけ矯正歯科治療は其中で成長発育の適切な時期に適切な治療が行われる必要がある。そしてその適切な遂行のためには、早期の治療難易度評価が極めて重要となる。Goslon Yardstickは、口唇裂口蓋裂患者の矯正歯科治療の難易度の評価にしばしば用いられる評価基準のひとつであり、簡便かつ再現性が高いことから広く用いられている。しかし、評価に際し相当数の歯列模型を用いるため、その管理がしばしば困難となる。一方、三次元デジタルモデルは石膏模型をデジタルデータに変換するため保存が容易であるため、現在多くの施設において導入されているが、これは石膏模型とは異なった印象を受けるといった問題点もある。本研究では、石膏模型より作製した三次元デジタルモデルを用いてGoslon Yardstickによる評価を行い、石膏模型を用いた場合との差異について検討を行った。

三次元デジタルモデルを用いたGoslon Yardstickによる評価は、それを扱い慣れていない場合、石膏模型による評価とくらべて若干の差異が生じる可能性があるものの、全体的な一致度は高かった。三次元デジタルモデルを片側性口唇口蓋裂の患者の咬合評価に用いることができ、三次元デジタルモデルを矯正歯科臨床に応用できることを示した。

本研究は、診断用石膏模型とその三次元デジタルモデルを用いて片側性口唇口蓋裂患者の咬合評価の一致度を測定し、三次元デジタルモデルの咬合評価における有用性を示したものであり、極めて顕著な研究成果である。したがって本研究は、歯科医学の発展に貢献するところ大であり、本論文は博士(歯学)の学位授与に値するものと考えらる。